

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターあんま担当圏域レベル）
開催報告書

1 開催日時	令和 6 年 10 月 29 日（火） 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
2 開催場所	東部保健福祉センター 健康教育室・集団指導室
3 参加者	33名
委員 18名（中ノ町地区：6名、和田地区：5名、蒲地区：7名）、関係機関 11名、事務局 4名	
4 協議の内容	<p>1. 開会：会長</p> <p>2. 前回の振り返り</p> <p>配布資料に基づき、事務局より前回の振り返りを行った。</p> <p>【主な意見・質問等】特になし。</p> <p>3. 情報提供①</p> <p>地域で長く続いている活動事例について</p> <p>配布資料に基づき、生活支援コーディネーターより情報提供を行った。</p> <p>4. 協議事項・テーマ①</p> <p>情報提供①を踏まえた「担い手不足」・「居場所づくり」について</p> <p>①情報提供を踏まえて感じたこと、気づいたこと</p> <p>②各地区ですでに行われている活動や、今後考えられる取り組みについて</p> <p>地区混合グループに分かれて協議を行った。</p> <p>協議後、各グループのファシリテーターから挙げられた主な意見について共有を行った。</p> <p>〈Aグループ〉</p> <ul style="list-style-type: none">地域の活動団体における担い手の年齢層が高く、次世代への声掛けが必要と感じる。しかし、個別の声掛けでは断られてしまうこともあり確実な方法ではないと思われるため、養成講座を行うとよいのではないか。担い手が増えていかないのは、大変というイメージが強く、活動の魅力があまり伝わっていないからではないか。 <p>〈Bグループ〉</p> <ul style="list-style-type: none">時代の変遷と共に「居場所の必要性」は変化すると考えるため、改めて居場所の必要性について理解する必要があると感じる。そして、その必要性を地域の方々にも伝える場があるとよいのではないか。以前は子ども会とシニアクラブなど、各団体の接点があったが少しずつ接点が少なくなってきたと感じるため、合同の行事を行うなど、再度接点づくりを意識していくことが

大切ではないか。

〈Cグループ〉

- ・個別の声掛けは「仕事が忙しい」と断られることが多い。
- ・長く続いている活動だからこそ、後任がその重圧から引き受けられなかったり、代表のみ分かっていることが多かったり、担い手はいても活動が引き継がれていかないことがあると思われる。
- ・切り口は違っても地域には同様の活動があるのではないか。
- ・現行の担い手が利用したいと思える居場所について考えることが取り組みを検討する上で大切ではないか。実際、現行の担い手も高齢化しており、担い手の居場所について話題に挙がることもある。
- ・活動の楽しさや、やりがいをどうつくっていくかという視点が大切ではないか。

〈Dグループ〉

- ・「町の花づくりグループ蒲」などと似たような取り組みを行っている活動について深堀するとよいのではないか。
- ・学校、地域住民、自治会の3つの組織で連携することが大切ではないか。

5. 情報提供②

和田地区 生活についてのアンケートの追加分析について

配布資料に基づき、コミュニティソーシャルワーカーより情報提供を行った。

6. 協議事項・テーマ②

情報提供②を踏まえた「担い手不足」・「地域の実態」について

- ①情報提供を踏まえて感じたこと、気づいたこと
- ②各地区で行われている活動の周知方法や、今後考えられる取り組みについて
- ③キーワードを踏まえた細かなエリア単位の実態について

地区ごとに分かれて協議を行った。

協議後、各グループのファシリテーターから挙げられた主な意見について共有を行った。

〈中ノ町地区〉

- ・以前までは閉鎖的な考えが中心となっていた町もあったが、現在は新しく引っ越してこられた方が地域の行事に参加しやすいように回覧板で誘えるような雰囲気づくりをしている町も出てきている。
- ・地域の祭りに参加する住民が多く、そこで担い手を見つけられる可能性があると感じる。

〈和田地区〉

- ・国道から南側は社会資源が少ないということについて確認することができた。
- ・同じ地区内でも実情が異なることについて把握することができた。
- ・和田地区社協活動の認知度については、当時はコロナ禍で地区社協だよりも発行できなかったことが要因として考えられる。

- ・同じ地域でも祭り等の行事がさかんで、人との交流や活動の周知を図りやすいエリアがあると感じる。

〈蒲地区〉

- ・コミュニティ担当の業務について一部把握することができた。

7. その他

(1) 生活支援体制づくり協議体委員報酬の支払いについて

生活支援コーディネーターより、協議体終了後に必要書類の提出をしていただくよう再周知した。

(2) 令和6年度 生活支援体制づくり協議体包括あんま(第3回)について

生活支援コーディネーターより、第2回の日程について確認した。

【協議結果】

日時：令和7年2月6日(木)13時30分から15時30分まで

場所：東部保健福祉センター 健康教育室・集団指導室

【主な意見・質問等】特になし。

8. 閉会：副会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回は、地域で長く続いている活動事例や「和田地区 生活についてのアンケート」の追加分析など、市社協による情報提供を基に「居場所づくり(・交流)」や「担い手不足」、「買い物支援」といったこれまでの協議体で挙げられたキーワードの実態について協議を深めることができた。

今後は、引き続き、地域の活動や取り組み事例を紹介してお互いの参考にしたり、GoogleマイマップやjSTAT MAPを活用するなどして、地域の実態をより明らかにするとともに今後の取り組みについてより協議を深めていきたい。